

令和元年土佐清水市議会定例会 12月会議会議録

第10日（令和元年 12月 11日 水曜日）

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

議事日程

日程第1 一般質問

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

本日の会議に付した事件

日程第1

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

議員定数 12人

現在員数 12人

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

出席議員 12人

1番	谷口佳保君	2番	弘田条君
3番	武政健三君	4番	山崎誠一君
5番	吉村政朗君	6番	作田喜秋君
7番	岡本詠君	8番	甲藤眞君
9番	細川博史君	10番	前田晃君
11番	浅尾公厚君	12番	永野裕夫君

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

欠席議員

なし

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

事務局職員出席者

議会事務局長	窪内研介君	局長補佐	中嶋由美君
庶務係主事	佐野舞君	主査	弘田孝欣君
主幹	横山美央君		

〜〜〜〜・〜〜〜〜・〜〜〜〜

出席要求による出席者

市長	泥谷光信君	副市長	磯脇堂三君
会計管理者兼 会計課長	戎井大城君	税務課長兼 固定資産評価員	沖比呂志君

企 画 財 政 課 長	横 山 英 幸 君	総 務 課 長	中 津 健 一 君
危 機 管 理 課 長	倉 松 克 臣 君	消 防 長	宮 上 眞 澄 君
消 防 次 長 兼 消 防 署 長	味 元 博 文 君	健 康 推 進 課 長	山 下 育 君
福 祉 事 務 所 長	吉 永 敏 之 君	市 民 課 長	中 津 恵 子 君
まちづくり対策課長補佐	山 本 実 君	観 光 商 工 課 長	二 宮 眞 弓 君
農 林 水 産 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	和 泉 政 彦 君	水 道 課 長	谷 崎 清 君
じんけん課長補佐	永 野 博 文 君	特別養護老人ホーム し お さ い 園 長	岡 田 旭 生 君
収 納 推 進 課 長	西 原 貴 樹 君	教 育 長	弘 田 浩 三 君
こ ども 未 来 課 長	伊 藤 牧 子 君	生 涯 学 習 課 長	田 村 五 鈴 君
教育センター所長兼 少年補導センター所長	亀 谷 幸 則 君	監 査 委 員 事 務 局 長	文 野 喜 文 君

~~~~・~~~~・~~~~

午前 10 時 00 分 開 議

○議長（永野裕夫君） 皆さん、おはようございます。定刻でございます。

ただいまから令和元年土佐清水市議会定例会 12 月会議、第 10 日目の会議を開きます。

昨日に引き続き、一般質問を行います。

7 番、岡本 詠君。

（7 番 岡本 詠君発言席）

○7 番（岡本 詠君） 皆さん、おはようございます。会派、市民のこえの岡本詠でございます。今回も、これまで同様、市政発展と市民生活の向上、その一助となりますよう、その思いを込めて一般質問させていただきますのでよろしくお願いいたします。執行部の皆様方には市民にわかりやすい答弁をお願いいたします。

今回は、土佐清水市の財政状況、長期財政見通しについてと学校給食に関して、そして布の迷惑駐車について、4 番目に今ノ山風力発電事業についての 4 点について通告させていただいております。いずれも市民生活や今の土佐清水市が置かれている状況からみても、とても重要な課題だと思いますので、そのあたり執行部の考えを聞いていきたいと思っております。

それでは、通告に基づき一般質問をいたします。

まず 1 つ目の土佐清水市の財政状況、長期財政見通しについてということで質問していきま

すが、まずことしの１１月の総務省のホームページで実質公債費比率が１８％を超えている自治体が公表されていますので、まずそこから紹介したいと思います。

平成３０年度決算に基づく実質公債費比率が１８％を超えた自治体は、全国で１，７４１ある市区町村の中のたったの８団体となっております。昨年も同じような話をいたしましたが、この実質公債費比率が１８％を超えるということは珍しいことではないということは決して言えません。土佐清水市は全国でもまれにみる財政状況の悪い自治体ということが改めてわかるかと思えます。

平成３０年度決算に基づく実質公債費比率が１８％を超えている市区町村をワースト順でいいますと、１位は北海道夕張市７１．８％、次に奈良県河合町２１．１％、次に京都府宮津市２０．９％、青森県東通村２０．３％、次に我が土佐清水市１９．２％、そして兵庫県上郡町１８．９％、兵庫県篠山市１８．８％、青森県黒石市１８．４％となっております。我が土佐清水市は、全国の市区町村の中でワースト５位。そして市に限って言うと第３位に挙がっています。

ちなみに平成２９年度決算に基づく実質公債費比率が１８％を超えていましたが、平成３０年度決算に基づく実質公債費比率は１８％を切った。つまり、１年たって数値が改善し、起債許可団体から抜け出した市区町村、これは北海道由仁町、そして青森県大鰐町、山梨県大月市、大阪府泉佐野市、奈良県香芝市の計５団体となっております。

このように、全国的に市区町村では財政状況が改善傾向にある中で、土佐清水市の財政状況はさらに悪化しているということで非常に危険な状態にあると危惧しています。何といたっても全国の市の中でワースト３位ですので、この状況の中で市民生活への影響は本当はないのか。このあたり聞いていきたいと思えます。

まず、企画財政課長にお伺いいたします。

実質公債費比率の推移について、お願いいたします。

○議長（永野裕夫君） 執行部の答弁を求めます。

企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

今年９月に作成いたしました長期財政見通し。こちらのほうは９月に議会の常任委員会でも報告させていただきましたけれども、その実質公債費比率の推移について、平成２７年度から年度別に答弁させていただきます。

まず、平成２７年度１６．７％、平成２８年度１７．９％、平成２９年度１８．９％、平成３０年度１９．２％、令和元年度１８．８％、令和２年度１８．７％、令和３年度１８．９％、令

和４年度１９％、令和５年度１９．２％、令和６年度１９．２％、令和７年度１８．７％、令和８年度１７．９％、令和９年度１６．８％、令和１０年度１５．９％。

以上です。

○議長（永野裕夫君） ７番、岡本 詠君。

（７番 岡本 詠君発言席）

○７番（岡本 詠君） ありがとうございます。

平成２９年度から１８％を超えて、１８％未満になるのが令和８年度ということ。

続いてですね、今年度も県のほうに提出されているかと思いますが、公債費負担適正化計画の内容について伺いたします。今、答弁いただきました長期財政見通しの中ではですね、実質公債費比率が１８％未満になる、切るのが令和８年だということでありましたが、公債費負担適正化計画でも同じ予定になっているかどうか伺いたします。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

通常であれば長期財政見通しと公債費負担適正化計画につきましては同じ数値になるところですけれども、今年度、長期財政見通しをつくった後に公債費負担適正化計画を県に提出いたしまして、１０月にそのヒアリングを受けました。その中で一部修正が入りましたので、先月その修正値が確定いたしましたので、その数値によりますと、令和５年度までは長期財政見通しと同じ実質公債費比率になっておりますけれども、令和６年度以降修正が入っておりますので、令和６年度以降の実質公債費比率について答弁させていただきます。

令和６年度が１９．６％、令和７年度が１９．４％、令和８年度１８．９％、令和９年度が１７．８％というふうになっておりますので、実質公債費比率が１８％を下回る年度というのが長期財見通しより１年延びまして、令和９年度に１８％を切るということとなっております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） ７番、岡本 詠君。

（７番 岡本 詠君発言席）

○７番（岡本 詠君） 県のヒアリングが１０月でしたかあって、修正が入ったから１年延びて令和８年度に切る予定が令和９年度に切るように延びたということですけど、今県からのヒアリングで修正が入ったということだったんですけど、これもし差し支えなければ修正の内容ってわかりますか。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

まずですね、2点大きくありまして、1点はふるさと納税の収益が一定2億円ペースでずっと続くと見込んでおったのが、それを見込むのはちょっと甘いということで、一定ふるさと納税を下げるような見込みを立てなさいと。

それともう1点は、歳出のところで幡多広域で処理しておりますクリーンセンターがございまして、そちらが平成14年に建設されまして、平成14年に起債を組合のほうで借りて、各市町村が負担金を出して償還していったわけなんですけれども、その償還が今終わっております。ただ、施設の更新時期にも間もなく入ることから、その更新が必要となるので、その更新費も見込んで建設当時と同じような起債の償還に対する負担金を今後見込みなさいという指示が入りましたので、そういった関係で令和6年以降の実質公債費比率に影響が出たということでございます。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） ありがとうございます。

ふるさと納税が2億円を予定していたら、令和8年度に切る予定だったということなんですけど、2億円じゃない、もっと低く修正しようということですね。あとクリーンセンターの償還が終わって、その償還額がなくなったと思ったけど同じような推移でやっていくということで。わかりました。

次に、公債費負担適正化計画では、実質公債費比率18%を切るためにこういった取り組みをしていくのか。課長、お願いいたします。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

18%を切るための取り組みといたしまして、現在ふるさと納税の寄附額というのが前年度比の2倍のペースでふえておりまして、来年度、令和2年度からは観光商工課のほうへ係を移しまして、増収に向けて集中的に取り組むこととしております。

そのほかにも、令和4年度以降の普通建設事業費、特に市単独で行う事業費のほうを抑制して元利償還金の財源とすること。また、令和2年度から機構改革による役職の統廃合などによりまして人件費の抑制を図るということとしております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） ふるさと納税の取り組みの強化と普通建設事業費の抑制でしたかね。

あと人件費も抑えていくということで。この前委員会で説明がありましたが、管理職の兼務ですよね。所管の兼務をしながら人件費を抑えていくということがありましたけど、今聞いててちょっと考えて思ったのが、前回のジオパーク推進課、これも今やるべきことだったのかなというふうに、今の答弁を聞いて思いましたね。

あと普通建設費の抑制についてなんですけど、ここちょっとやっぱり心配なところで市民生活を守るためのハード事業だと思うんですけど、これが抑えとなると、そういった予算が縮小されていくのかなと思います。その結果といいますか、抑制することによって市民生活に悪影響、これが出るのではないかと心配していますが、そういった心配は、課長ありませんか。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） 緊急にやらないかん事業とかについてはですね、当然抑えずにやっていくつもりをしております。ただ、後年度に回せるような普通建設事業費、特に市単独で行う事業については、極力後ろに回すと。重ねて言いますが、緊急的にやらないかん事業についてはやっていきます。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） それはそういうふうな説明なのでわかっているんですけど、そのことによって心配はないかなと思ったんです。

次にですね、長期財政見通しの収支の部分で、令和4年度から8年度までの5年間、合計6億3,000万円のマイナス収支となっていますが、これは財源不足ということなんですけど、この財源不足をどのように乗り切っていくのか。課長、お願いいたします。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

岡本議員がおっしゃるとおり、令和4年から令和8年度までの5年間で合計6億3,000万円の収支のマイナスを見込んでおります。この財源不足への対応といたしまして、まず市税等の徴収率の向上、それと市が持っております遊休資産等の賃貸・売却によりまして歳入の増を図る。それと後は庁内の組織機構の再編・合理化に伴う人件費や物件費の抑制、そして後は基金の取り崩しによって対応していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

(7番 岡本 詠君発言席)

○7番(岡本 詠君) いろいろちょっとう、市税の徴収率を上げたりとか言われてございますけど、最後に答弁いただきました基金の取り崩し。ずっとこの前もね、歳出抑制の副市長からのお達しのときにも言いましたけど、ちょっといろいろやっても焼け石に水じゃないですけど、余り収入に大きくつながるような施策にならないのかなとは思いますが、その中で基金の取り崩しで乗り切ってきていると思うんですけど、やっぱ今言われた乗り切っていく施策の中で、基金の取り崩しの部分のウエートはやっぱ大きいということによろしいでしょうか。

○議長(永野裕夫君) 企画財政課長。

(企画財政課長 横山英幸君自席)

○企画財政課長(横山英幸君) 近年の決算を見てもわかるとおりですね、最終的には基金によつての決算を行っておりますので、ウエートは大きいかもしれないです。

○議長(永野裕夫君) 7番、岡本 詠君。

(7番 岡本 詠君発言席)

○7番(岡本 詠君) そうですよ。次、行きます。

次に、基金全体の残高の推移について、企画財政課長にお伺いいたします。

平成27年度から30年度と令和元年度、本年度ですね。残高の見込みをお願いいたします。

○議長(永野裕夫君) 企画財政課長。

(企画財政課長 横山英幸君自席)

○企画財政課長(横山英幸君) 一般会計の基金の残高で答弁させていただきます。

まず、平成27年度末が20億3,870万円、平成28年度末、21億6,534万円、平成29年度末、17億6,169万円、平成30年度末、16億5,213万円、そして今年度(令和元年度)末、これは見込みになりますけれども、16億2,887万円。

以上です。

○議長(永野裕夫君) 7番、岡本 詠君。

(7番 岡本 詠君発言席)

○7番(岡本 詠君) 平成27年度が20億3,000万円余りということで、次の28年度が全体としてはちょっとふえていまして21億6,534万円で、あとはどんどん減ってきていまして、この減少している額というのは平成28年度末の21億円余りから考えると、3年間で5億3,000万円ぐらいの減となっていると思います。

そうしたら次に、財政調整基金。これの残高の推移についてお願いいたします。先ほどと同じ平成27年度から30年度と令和元年度の残高見込みまでお願いいたします。

○議長(永野裕夫君) 企画財政課長。

(企画財政課長 横山英幸君自席)

○企画財政課長(横山英幸君) お答えいたします。

財政調整基金の残高は、平成27年度末、13億2,201万円、平成28年度末、12億6,571万円、平成29年度末、10億1,738万円、平成30年度末、9億2,100万円、今年度、令和元年度末の見込みが8億5,568万円となっております。

以上です。

○議長(永野裕夫君) 7番、岡本 詠君。

(7番 岡本 詠君発言席)

○7番(岡本 詠君) 平成27年度末の財政調整基金の残高が13億2,201万円ということで、ことし令和元年度の見込みが8億5,568万円ということですね。これもあれですか、4年で4億円、大体5、6,000万円ぐらいですかね、減るということで。わかりました。

それで、これ令和元年度末の残高見込みなんですけど、8億5,568万円ということでしたが、この金額を出した計算方法を、もしよかったら教えていただきたいんですけど。

○議長(永野裕夫君) 企画財政課長。

(企画財政課長 横山英幸君自席)

○企画財政課長(横山英幸君) 30年度末の残高に今年度の積み立てする金額を9月補正で組んでます。それを積み立ててふえる部分、減る部分は今12月補正までの取り崩し額を取り崩したものと計算しています。

以上です。

○議長(永野裕夫君) 7番、岡本 詠君。

(7番 岡本 詠君発言席)

○7番(岡本 詠君) ありがとうございます。

そうしたら、今の説明だと、ちょっと待ってよ。9月補正で4,600万円でしたかね。それを積み立てて予算計上してということで、12月補正で繰り入れの予算計上でですね。あくまで今現在、12月現在の見込みということですよ。そこなんですけど、今12月現在の見込みということであって、年度って3月まであるじゃないですか。あと3カ月。3月会議でよく補正組んで、繰り入れがあるかもわからないですけど、この残高見込みについて、ちょっと課長にお尋ねいたします。

例えば、平成30年度の3月会議、ことしの3月会議ですね。年度の最後の議会ですけど、一般会計補正予算書(第7号)では、9,414万7,000円を財政調整基金から繰入金として補正計上されています。さらに8号があったんですけど、8号でも1,894万7,000円、これを繰入金として補正計上されています。合計すると3月会議の補正で1億1,309万

4,000円が財政調整基金繰入金として計上されているわけですが、今年度のあるいは来年度の3月補正でも、このようなことが起こる可能性はあるのかどうか、課長。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） まだ各3月補正についての予算要求が各課から上がってきていませので、どういった補正があるのかわかりませので、どれだけ財源不足が3月補正で生じるかというのはまだ不明です。で、まだその見込みについては、先ほど答弁した中には3月補正の見込みは入っておりませんですけど、ただ昨年との違いでいいますと、昨年は早期退職者の数がかなり多かった。で、退職手当の金額を増額補正する金額というのが多かった年でありました。で、ことしは昨年よりは早期退職者数のほうは少ないです。で、その分においては補正の額というのは少なくなるのではないかと。いうふうに思っております。で、昨年以上みたいなことはならないのではないかと。いうふうな見込みは立てております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） 可能性があるのかどうかだけ聞いたんですけど、何かしらありそうだけど、ことしの3月みたいなことは、昨年度みたいなことはないだろうというふうな考えですかね。早期退職者とか、そういうのもそうなんですけど、町にとっても急な出費といいますか、整備とか何が起こるか今はわかりませので、可能性はあるんじゃないかと思います。

そのことを踏まえて、次に質問を進めていきます。

次に、実質単年度収支の推移について、企画財政課長、お願いいたします。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

平成27年度から答弁させていただきます。

平成27年度が実質単年度収支が656万円、平成28年度がマイナス1億5,508万円、平成29年度がマイナス1億8,430万円、平成30年度がマイナス1億1,198万円となっております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） わかりました。

今言われた金額が財政調整基金の残高から毎年減ってきているということと思うんですけど、

私もですね、ことしの1月に財政指標の見方といいますか、財政指標に関する議員研修がありまして、同じ会派の前田議員と参加させていただきました。

そこで財政指標の分析についていろいろと勉強させていただきましたが、その研修のレポートが議会事務局のホームページで公開されています。

ところで課長には聞き取りの事前のときに、これに書いていることをもとに質問するよということをお願いしていましたが、私のレポートは読んでいただけましたか。

○議長（永野裕夫君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） 申しわけありません。まだ目を通して読んでないです。申しわけないです。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） お忙しいと思いますので、またぜひ目を通していただいて、レポートにいろんな分析とか意見を書いています。

ただ、私もそんなに詳しくないですし、またはこれ間違っているぞとか、そういうところがあれば、ぜひ御教示いただきたいですね。

そのレポートの中に書かせていただいた文章を引用させていただきますが、こう書いてあるんですね。この実質単年度収支の指標からわかることは、平成27年度までは財政調整基金もふえて健全な財政運営がなされてきていますが、平成28年度からは赤字へと転落したため、財政調整基金を取り崩してやりくりしているということがわかります。実質収支では黒字になっていても、実際には赤字を埋めるために財政調整基金を取り崩して会計上黒字に見せているだけで、実際の収支は赤字ということです。起債発行から3年間は利子だけ払っていればいいのですが、この据え置き期間が済んだら元金償還が始まります。つまり、身の丈に合わない借金をして無理な財政運営をしても、実質公債費比率は実質単年度収支といった財政指標の悪化は3年くらいはあらわれてきません。逆に言えば実質公債費比率や実質単年度収支の悪化があらわれてきた年も、3年前からまずい財政運営をやっていたんだということが判断できます。実質収支は財政調整基金を取り崩したらプラスにすることができそうですが、今ずっとこれでやってきたと思うんですけど、ただ財政調整基金がなくなれば、それができなくなります。財政調整基金残高が徐々に減っていないか、実質単年度収支がマイナスの状況が続いていないか、この2つの部分を特にチェックする必要があるということです。この点に議会は早い段階で気づき、執行部に警鐘を鳴らしていく作業をしていかなければなりません。それが議会の役割、議員の役割であるということが改めて確認できました。

こういうふうにレポートには書いています。そのまま今の市の財政状況が当てはまるんじゃないかなと思うんですけど、そこで心配なのが、私常々言っていますが、このまま行くと基金が枯渇するのではないですかということなんですね。このことについて、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 本年9月に作成した長期財政見通しでは、令和4年から令和8年までの5年間、財源不足が生じて合計で6億3,000万円の財源不足が生じる、そういう見込みとなっております。これは先ほど企画財政課長が答弁いたしましたが、基金の残高は今年度末で約16億2,887万円、そのうち財政調整基金は8億5,568万円でありますので、仮に財政不足を全て財政調整基金で補ったとしても基金が枯渇することはないと考えております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） この数値上といいますか、見通しの数値でいうと単純計算でいうとそうなるのかなと思いますけどね。

でもなんですけど、特定目的基金を使いながらも財政調整基金は毎年1億円以上減ってきていますよね。この状況を目の当たりにしていますので非常に心配していると、私は思うわけでございます。

長期財政見通しでは、令和4年から令和8年までの5年間、合計で6億3,000万円の財源不足、今答弁ありましたけど。財政調整基金の残高見込みが8億5,568万円ということで、その差が2億2,568万円が財政調整基金の残高になっていると思います。

今現在の見込みということで、さっき課長にこのあたり確認させていただきましたが、長期財政見通しでの財源不足の合計が6億3,000万円、財政調整基金が8億5,568万円ということで、今現在の見通しの上では2億2,000万円余りですかね、財政調整基金も残るので枯渇はしないだろうということですが、先ほど課長に確認した来年の3月会議まで何が起こるか分からないよということで、そのあたりの財政調整基金繰り入れをまた予算計上するかもわからないと。そういったことを加味しますというかね、考えるというと、単純に見通しどおりの数値では行かなくなると思います。

例えば、今課長は昨年度、平成30年度、ことしの3月会議で予算計上した財政調整基金の繰入金ですよ。そのぐらいの額ほどはことしはないだろうというふうな答弁があったと思いますが、これちょっとわからないですけど、もしもあったとしたら、また1億円ぐらい、もしくはそれ以上、3月補正で繰り入れの計上をしなければいけないという状況になりますよね。

ただ、これ予算額ですので、実際の決算額は予算額と同額になるとは私も思ってはいませんが、そのようなことを考えると、今年度の財政調整基金の見込みは多く見てですよ、さらに1億円減って7億5,000万円ほどになるのかなと。この計算で行くと令和4年から8年までの財源不足6億3,000万円に財政調整基金を当てた場合の財政調整基金残高は1億円余りになってくるのではないかと考えます。この1億円になることが将来考えられるということと思うと非常に恐ろしいわけですけど、そういった予測ですよ。普通に考えて、今までこういう来ているから来年の3月会議でもそういったことが起こるんじゃないのというふうな予測ですけど、そういったふうなことを考えると本当に足りなくなるのではないかと私は考えています。

次に、何かおかしいですか。大丈夫ですか。このような財政運営をしている市長の見解について伺いをいたしますが、大概ですね、いつも聞いていますけど、普通交付税の減額は収入が減っていくことが予想される中、市民の命を守る、そのための大型事業を集中的に実施したことで、収入以上に支出が上回ってしまったということだと思うんですけど、市民の命を守るためにやったと言われれば、それもわからんこともないんですけど、そのことによって市民サービスの低下や市民生活に悪影響が出ないのかなと心配しているんですよ。そのあたり市長の今の運営について見解を求めます。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） もう何度も何度も説明をしたところでありますが、改めて答弁させていただきます。

本市の財政状況は、平成27年の国勢調査による人口減に伴う普通交付税の大幅減や、南海トラフ地震・津波から市民の命を守るために、短期間で集中的に実施した大型事業に係る起債の償還が数年にわたり続くことから、義務的経費が増大し、財政の硬直化が進み、大変厳しい状況の中で財政運営を行っているところです。

御指摘の基金の額も多くありませんし、市税等の自主財源についても飛躍的に好転することはないと思っております。しかしながら、今後も職員一人一人が歳出抑制・経費節減に努め、既存事業の費用対効果を十分に検証し、市民サービスを低下させることのないよう、限られた財源の中で知恵を出し合い、工夫しながら最大限努力し、健全財政に努めてまいりたいと思っております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） 予想したとおりの毎回同じようなフレーズですけど。

そうですね。市長、私常々言ってますけど、市民サービスの低下、そして市民生活への悪影

響、このあたりを非常に心配しています。その思いからね、この財政状況を毎年質問させていただいておりますが。

例えば私の身近なところでいうと、これ皆さん土佐清水市に暮らす市民の方、ほとんどの方が1回は利用することになると思いますが、土佐清水市斎場の利用料金、これことしの10月の消費税増税に合わせて土佐清水市斎場の式場利用料などが値上げされています。内容は消費税率が変わったからと。その分ちよろっと値上げされているわけですけど、9月会議の後に近隣の斎場、ここにちょっと問い合わせをして調べました。そうしたら、四万十市の幡多中央斎場、そして宿毛市斎場ともに消費税率が変わった10月以降、この金額は据え置き、変わっていません。つまり値上げなどはされていないですね。しかし、土佐清水市はこのところを値上げしています。この差というのは何なのかなと思うわけですけど、今市長の答弁にもありましたけど、市民サービスの低下、そして市民への負担は求めないというふうな毎回同じ答弁。それは本当に願うところではありますが、これ例えば四万十市に暮らす市民の人々、そして土佐清水市の近隣に暮らす人と比べると、土佐清水市斎場の式場利用料についてはですね、明確に金額が変わっちゃったんですね。そのあたり何ていいますか、単純に考えてというか普通に考えて、市民生活の負担、これが増したのかなと思うんですけど、そのあたり市長どのように考えますか。

○議長（永野裕夫君） 岡本議員、この件については通告はしていただいているんですか。

○7番（岡本 詠君） いいですか。

○議長（永野裕夫君） どうぞ。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） 何度も言いますが通告はしていない、今の答弁に対する再質問ですよ。これに通告しようがないので。

今、答弁の中で市民サービスの低下、市民生活への負担を求めないという答弁ありましたよね。その答弁の中の、この答弁に対して、いや、市長毎回そういうけど、実際こう見たら、斎場の料金1つ取っても違うんじゃないのということを、どう思うのかということを聞いたんですけどね。

○議長（永野裕夫君） 本来ならば関連の質問になろうかと思いますが、流れの中で市長の答弁も求めたいというふうに思いますので、今後ある程度自粛した流れの中での関連の質問には配慮をお願いしたいというふうに思います。

市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 端的に言いまして、斎場の利用料金だけを取り上げて、このサービス

が低下していると決めつけるというのは本末転倒の議論だと思います。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） だから、それに限って言っているわけではないし、これだけ取り上げてサービス低下しているとか市民の負担がふえているというわけじゃないでしょう。例えば、例に挙げて1つ言っただけですよ。そのほかにもいろいろ、例えば施設の利用料であったり、市に係る消費税の部分、条例改定して消費税上げられましたよね。

ただ、私が言っているのは、ほかの近隣の斎場、市町村が上げていないところを上げている。これ上げていないのには上げない理由があると思うんですよ。清水だけ上がっているの、これを土佐清水市民の人が見た場合に、四万十市は上がってない、清水は上がった。何か悲しいねってなるわけじゃないですか。そこを聞いたんですけどわかりませんか、市長。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） こういう議論はやめましょう。本当に全体を見てですね、質問するのはわかりますが、斎場の利用料1つを取り上げてやりとりするのはいかがなものでしょうか。また、この財政状況の質問からは、私は明確にそぐわない質問になっているのではないかと思います。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） そぐうと思いますよ。財政状況の質問の中で、財政状況が悪化すると市民への負担がふえるんじゃないかという懸念があって質問しているわけですから、市民への負担がこういうことでふえているんじゃないのという話ですよ。全くそぐわないと思います。

でも市長、やめたいということなので、これでこの質問はやめますけど、これを見た市民がどういうふうに判断するのか。そのあたりまた市民に判断をゆだねたいと思いますが。

そうしたら、次の質問に行きます。

学校給食に関してということですが、前回の9月会議ではですね、この学校給食に関して全ての食材の産地の公表をするべきではないかというふうな質問をさせていただきました。その後、早速ですね、市のホームページで公表していただいているということで、本当に迅速な対応といいますか、やってくれたということを本当に感謝しています。そして保護者の人も市民の皆さんも喜んでいる声も聞きますし、本当にありがとうございます。

ただ、今回は同じ学校給食に関連しての質問なのですが、とても残念な、ちょっと案件につ

いての質問となります。

昨年から開始された学校給食ですが、下ノ加江小学校の給食用カートの搬入口、これは予算を組んで改良して工事を施工していたのですが、1年以上最近になるまで使用することができない状態でした。この下ノ加江小学校の給食用カートの搬入口が使用できなかったことの経緯といえますか、経過というか、そのあたりこども未来課長にお尋ねいたします。

○議長（永野裕夫君） こども未来課長。

（こども未来課長 伊藤牧子君自席）

○こども未来課長（伊藤牧子君） お答えいたします。

下ノ加江小学校の給食用搬入口改修工事につきましては、正面玄関を向かって右側の配膳室外側扉の取りかえにあわせ、入り口コンクリートプラットフォームの作製工事が平成29年12月6日に完成し、同月19日完成検査を行いました。翌年、平成30年5月上旬に給食調理配送業者による事前練習の際、給食用コンテナが搬入口を通れないことが判明いたしました。その原因としては、扉を開く方向に既設されていた柱があり、その柱に扉が当たり、180度開くはずが90度しか開かず、設計時には扉の厚み幅も開けた際の柱も考慮されておらず、開く方向の柱と扉の厚み幅が搬入口を狭め、コンテナが通過できないというものでした。

不具合が判明してから、施工業者を含む複数の業者へ改善方法を相談したところ、改善工事費用は40万円程度の多額の見積もりとなることを聞き、経費を少しでも削減できないか模索しておりましたが、1カ月後の6月からの給食開始には玄関からの搬入が可能であるため、教育委員会としては給食用コンテナを玄関から搬入することといたしました。同時に、改修した搬入口の改善については経費の少ない部分的な修繕策を検討することといたしました。給食が開始となってからも予算的な面から工事のやり直しに対して消極的になっており、部分的な改善策を見つけることができなかったために、当初改修した搬入口については使用できておりませんでした。

以上でございます。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） わかりました。

柱があって全開にならないから、内側にあったんですかね。そのことで搬入できないということなんですけど。その設計といえますかね、もともと扉の部分だけで通れないぐらいの幅しか設計されていなかったのかというところが、やっぱり普通に考えておかしいなとは思っています。

学校給食の事業に際して、事業費予算計上してですね、実際搬入口の工事がされて予算使っ

ているわけですね。その中で1年以上もこれ直してくれというふうな声も再三上げたというんですけど、今課長が言われたとおり、予算的に40万円でしたかね。40万円さらにかかってしまうということで消極的になっていたということなんですが。9月会議ぐらいまで、そういった動きがなくて、その後ですね、9月会議の中の話の中で私もちらっと述べたんですけど、そういったこともあってかちょっとあれですね、変化あったということで。これまた後で聞きます。

今の答弁の中に何でこんなことになったのというのは入ってました。改めて言います。じゃあ、なぜこのようになったのか、課長、お願いいたします。

○議長（永野裕夫君） こども未来課長。

（こども未来課長 伊藤牧子君自席）

○こども未来課長（伊藤牧子君） お答えいたします。

先ほどの答弁と重複する点もございますが、当初改修設計の図面確認の際に、扉の開き方による搬入口の有効幅についての検証が不十分であったこと、不具合が生じていたにもかかわらず、本工事費74万円に加え、さらに40万円程度の予算はかけられないと教育委員会の中で判断し、最善策がないまま時間が経過してしまったことが原因と言えます。

以上でございます。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） 扉の使用に係る検証が不十分だったということで、これ先ほども言いましたけど、予算組んで市民の税金を使って工事をしたにもかかわらず使用できていない。その原因というのは検証が不十分であったりとか、そういうことだったと思うんですけど、これ扉1つでちっちゃなことかもわからんですけど大問題だと思うんですね。やっぱり市の事業として市民からいただいた税金を使って行った事業が、それが使用できない状況でずっと来ているというふうなことですよね。

この状況について、一応教育長と市長に見解を求めていましたが、済みません、時間がないので教育長、申しわけないですけど市長だけにさせてもらいたいんですが。最高執行権者の市長にこの件を問いたいんですけど。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 岡本議員、教育行政というのはですね、これは市長部局とは切り離された権限があります。当然、この答弁の責任というのは教育長が負わなければならないのですが、それを承知での質問だと思いますので、教育委員会には大変せん越ではございますが、そ

ういうことでありますので御承知していただいて答弁させていただきます。

学校給食、これはですね、念願の事業でありまして、「子どもは宝」子育て・教育環境の充実ということで位置づけまして、本市が推進する重点事業の1つであります。今回のこの問題につきましましては、児童・生徒に対する学校給食の安全及び衛生管理等のために実施した下ノ加江小学校改修工事の不具合に、正規運用でない形で事業が行われていることがわかったにもかかわらず、1年半も対処しなかったことは大変問題であると思っております。工事担当者職員にはてんまつ書を提出させて嚴重注意を行ったところではありますが、この行為は教育行政に対する信頼失墜行為に資するというふうに考えております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） そのとおりですね。

課長、今現状どうなっていますか。

○議長（永野裕夫君） こども未来課長。

（こども未来課長 伊藤牧子君自席）

○こども未来課長（伊藤牧子君） お答えいたします。

今の現状につきましましては、下ノ加江小学校給食用搬入口改修工事は、改修前の状態から既に扉があり、その扉には隣接する窓や、窓に付随するカウンター、腰壁等、その構造上、扉部分以外は改修が困難な状態であったため、今回の改善工事で扉を右側開きに取り換え、扉開口口を最大に拡張した結果、現在は正面玄関ではなく当初計画しておりました場所からコンテナの搬入をしております。

以上でございます。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） わかりました。

今現在は入れるようになっていると。ただ、何ていいますか、扉を右側開きにして改良したんですね。扉を改良することによって通れるようになったと。一応、窓枠といいますが、扉の枠全体の工事はちょっといろいろできない理由があったということですよ。

今現在通れるようになって入っているから、当初の搬入口は使用できる状態にはなっているということなんですけれども、実際そこを使っている給食センターの職員であったり、見た保護者の人の話を聞くとですね、本当、給食用カートがぎりぎり通れる、左右1センチとかその位の幅しかあいてないんだと。指が入るか入らないかという形だけね。そういうふうな状態で毎日搬入しているということなんです。

これってもう1個聞いたのは、清水中学校の搬入口もそのような状態であるということなんです。今課長の答弁にありましたが、下ノ加江小学校はもともとなかったところに改良して入れるようにした。だから使い勝手が悪いような状態になる可能性もあるというのはわかるんですけど、清水中学校に限っては、当初に学校給食を想定していなかったのかもわかりませんが、最初の工事からこういう状態だったということで何でかなと思ったんですけど。

ただ、今言いたいのはですね、カートの搬入口がぎりぎりの状態で、女性の給食センターのスタッフが重い給食のカートを毎日当たらないように、指を挟まないように気をつけながら入れているということを考えると非常に気の毒でなりません。こういうふうな搬入口の状態、ぎりぎりなんですよということなんです。このことに対して、また答弁を求めたいと思うのですが、済みません、同じく時間がもう。多分これ答弁で終わると思うので、教育長、申しわけないですけど市長に聞きたいと思います。

（「議事進行」の声あり）

○9番（細川博史君） 議事進行で、今教育長への問題やと思いますので、議事進行をお願いします。

○議長（永野裕夫君） 岡本君、教育長に。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） わかりました。早目にできたらお願いします。

○議長（永野裕夫君） 教育長。

（教育長 弘田浩三君自席）

○教育長（弘田浩三君） これは搬入口でございまして、決して玄関とかそういうものではございません。今岡本議員おっしゃるとおりに、広ければ広いほどいいですか、一定の広さがあつたほうが、それはいいのかなという感じもしますが、目的自体がカートが通る、中に入ったらまず目的が達成できるというところでございます。

また、それは広いほうがいいのかとは思いますが、それは予算との比例部分もありますし、現在丁寧に運んでいただいておりますが、余分に広いとちょっと乱雑になったりですね、丁寧さがなかったりですね、どんとぶついたりするようなこともあろうかと思うのですが、今確かに岡本議員おっしゃるとおりにぎりぎりというか、部分はあるのですが、それを丁寧に配達業者の方が作業もしていただいておりますが、事故とかそういったけがとかも起こっておりません。逆によかったかなとか、丁寧に作業していただく部分においては危機管理上のにもよかったのかなという部分もあります。

いろんな改善策は今後もですね、また委託業者のほうとも協議をして、また改善策等が考えられれば、また一回つくったから放っておくということではなくて、研究しながらもう少し

こうあれば、それは検討していくべきこと。このことだけにとどまらず、ほかのことも必要ではないかというふうに思いますので、今の搬入口については今の形での発注でしたので、今まだ入っておりますので御理解いただきたいというふうに思っております。

○議長（永野裕夫君） 7番、岡本 詠君。

（7番 岡本 詠君発言席）

○7番（岡本 詠君） 教育長はそういう意見ということで。市民の声も聞きながら、また検討してください。時間がなくなりましたので、これで終わります。あと残りの2つは、また次回以降でやりたいと思います。

○議長（永野裕夫君） この際、暫時休憩いたします。10分程度休憩いたします。

午前11時01分 休 憩

午前11時11分 再 開

○議長（永野裕夫君） 休憩前に続いて、会議を開きます。

引き続き、一般質問を行います。

3番 武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 皆さん、おはようございます。自由民主党、議会会派みらいの武政健三と申します。通告に従いまして、私の一般質問を始めさせていただきます。

まず冒頭にですね、私、耳が不自由です。補聴器をやっております。ボリュームのすごく高い方、例えば細川議員とかははっきり聞こえます。ですけども、マイクに離れて小さい声でしゃべる声がわからないところがあります。これはしゃべる方も気をつけていただいて、マイクに近づけて相手に意思を伝えるというのが言葉ですのでお願いしたいです。それと、ミキサーさんもいらっしゃいますので、この方ちょっと小さいんじゃないかなというときは少し上げていただけるようによろしくお願いします。これボリュームを使っておりますけど、なかなか大変でございますので、よろしくお願いします。

本日は土佐清水市議会一般質問、令和元年度最後の質問となりますので、明るい来年につながりますよう前向きな、そして時々厳しく、最後には気持ちよく終わって来年につなげたいと思いますので、最後までよろしくお願いします。

今回は3つの質問をさせていただきます。

まず1つ目は6月度、9月度の質問に引き続きまして、とても気になっております、ふるさと納税の進捗状況。そして2つ目、先月行われました足摺岬でのスターウォッチングという企画を題材に企画ものの考え方について。そして3つ目、観光客増に向けての足摺岬遊歩道の整備並びに観光地としてのあり方、考え方を問うという内容ですので、最後までどうかよろしく

お願いします。

それではまず最初に、前々回6月度、前回9月度の質問に引き続きまして、土佐清水市の大きな伸びしろの1つであります、ふるさと納税について質問させていただきます。

私も前回お話ししましたですけども、自分でつくりました、ふるさと納税で生まれ育ったこの土佐清水を元気にしよう大作戦ということでリーフをつくりまして、まだ全部行けてないです。まだ8割ぐらいの家庭に配らせていただきました。お会いできた方には、このふるさと納税というのは3万円の寄附をしていただきましたら、返礼品を合わせて3万7,000円の見返りがあると改めて説明をして回らせていただきました。すると、ふるさと納税って得ながや。これあんまり言われんらしいですけど。と私が言っているんじゃないですよ。相手方が言っているんです。と知らない方が半数以上の方がいらっしゃいます。前回もお話ししましたが、告知したということと市民の方々に把握、認知していただいたということには、まだ大きな隔たりのあるんじゃないかな、そういうふうに強く感じました。

内容を把握していただきましたたくさんの方々が、市外、県外の友人、知人、親戚に連絡をしてくださったと、たくさんの方から報告をいただきました。

やはり、やさしくて温かくて本当におせっかいな方ばかりが、この土佐清水にはたくさんいらっしゃいます。よいことは、やっぱり広報もそうですけども、皆様の口づてでどんどん広げようという、そりゃあみんなに言うちゃらないかん作戦で本当にすばらしい名前で、ずっと私、言い続けておりますけども、この活動を2人、3人ではなく、この議場にいらっしゃる方々だけでもなく賛同していただける市民全員が本気を出して行動したら、このふるさと納税も果たしてどんな数字になるのだろうと、元営業マンの私はわくわくと想像するわけですけども、それでは大きな期待を込めて質問に入らせていただきます。

企画財政課長にお聞きいたします。ふるさと納税の昨年同時期との比較及びことしの最終予想数字を教えてください。

○議長（永野裕夫君） 執行部の答弁を求めます。

企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

まず、昨年との比較につきまして述べさせていただきますが、先月、11月末の金額で答弁させていただきます。昨年は11月末で4,207万円の寄附額であったのに対しまして、今年度は約2.3倍の9,569万円となっております。先週12月3日ですけれども1億円を超えております。

このような状況でありますので、今年度の寄附額につきましては2億円と見込んでおります。

その関連する経費については、12月の補正予算に追加計上しております。例年12月に年間寄附額の約4割が集中しておりますので、そのことを考慮いたしますと、今年度は2億3,000万円ぐらいになるのではないかというふうに思っております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） どうですか、皆さん。本当に素晴らしいですね。このままでしたら、ことしが2億円を超える数字になりそう。

調べましたところ、29年が4,113万円。そこから去年が約2.3倍。そしてことしがまた2倍の進捗状況ということで、2億円以上行きそうということですね。これは本当に企画財政課の皆さん、少ない人数でこれだけの実績を上げたこと、本当に素晴らしいことだと思います。横山課長、責任は課長ということですが、実績、成果は全て部下の職員のおかげです。公文係長以下、皆さん思いっきりほめてあげてください。先ほどもね、実質この土佐清水の状況というのが厳しい厳しいと言っておりますけども、これ皆さんの力をお借りすると、ことし2億円、来年5億円、2年後、3年後には10億円。10億円といたら、それがもう全部市のお金に使えるわけですのでね。本当にこれ一生懸命やるべきではないか、そういうふうに思っております。本当にありがとうございます。よろしくお願いします。

次に、2番目の質問に移らせていただきます。

先日、開催いたしましたスターウォッチングを題材に、企画ものとイベントについて質問させていただきます。

先日、数名の僕の友達からお話がありました。11月3日、三原村でどぶろく祭りというのに行っちゃった。物すごい人で、三原のどぶろくとかいっぱいお土産買うてきたでって、コントのどぶろくもすごくおもしろかった。その帰りにチケットを渡されて、大月町に寄ったら何かええもんがもらえるということで大月町に寄ったら、そこも物すごい人が来ちゃった。最後に広報のほうでね、足摺でスターウォッチングいうのを4時からしよるということで見にいっちゃった。けど残念ながら人が少なかった。村と町に負けてどうするがぞというふうにおしかりを受けました。

そんな折、先日12月3日の高知新聞に観光にコンサル、2年で2億円超えという記事がありまして、観光分野で29年、30年の2年間でさまざまな観光イベントでアイデア、運営、PRなどを担うコンサル会社やプロモーション会社に支払った金額、34市町村別の支払額が出ておりました。この内訳は後でお聞きいたしますけども、例えば1,000万円の経費をかけても、それ以上の相乗効果が必ず見込めるとしたら、それは当然挑戦するべきだと思います。

反対に、今回は１０万円しか経費を使うてない。しかし、集客が全然できんかった。そうなりますと、それは大失敗どころか、次からあんな人気のない企画には行かれんでって二度と参加してくれなくなります。お金をかけようがかけまいが、企画ものは失敗はやはり許されません。

そこで、観光商工課長にお聞きいたします。

先日の高知新聞に出ておりました、昨年度の観光でコンサル、プロモーション会社への支払い５３０万円。その内訳を教えてください。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

平成３０年４月のジョン万次郎資料館のリニューアルオープン及び志国高知幕末維新博第二幕開幕に合わせ、ジョン万次郎が帰国資金を集めたゴールド・ラッシュと、このゴールド・ラッシュの作業から誕生したといわれるデニムをつなげ、ジョン万とゴールド・ラッシュとジーンズ誕生と称した特別企画展を開催いたしました。この事業全般をジョン万次郎資料館磨き上げ事業として、企画、プロモーション等一式をコンサルタント会社へ委託いたしました。具体的には、オリジナルジーンズとなるジョン万デニムの制作費や、ジョン万次郎資料館名誉館長であるビビる大木氏を志国高知幕末維新博第二幕オープニングセレモニーに招聘してのＰＲ費、ジョン万次郎資料館リニューアルオープン及びジョン万デニムプロジェクトのＰＲ費に係る委託料となります。

以上です。

○議長（永野裕夫君） ３番、武政健三君。

（３番 武政健三君発言席）

○３番（武政健三君） ありがとうございます。そういうことなんですね。土佐清水市の偉人、ジョン万関係に使われたということで、いずれこのジョン万、大河ドラマにつながるようにね、生きたお金になることと信じて次の質問に移らせていただきます。

観光商工課長にお聞きいたします。１１月３日に行われました、スターウォッチング。この主催と運営はどちらでしょうか。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

スターウォッチングの主催、運営はあしずり温泉協議会です。

○議長（永野裕夫君） ３番、武政健三君。

（３番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君）　ありがとうございます。

足摺温泉協議会主催で観光協会と観光商工課がお手伝いという形でよろしいですね。

では次、本題に入らせていただきます。

観光商工課長にお聞きいたします。この企画の目的を教えてください。

○議長（永野裕夫君）　観光商工課長。

（観光商工課長　二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君）　お答えいたします。

スターウオッチングの旅行商品化または有料の体験プログラムにつなげ、スターウオッチングのために土佐清水市に訪れる、土佐清水市に宿泊される観光客の増加を目指すことを目的としております。

○議長（永野裕夫君）　3番、武政健三君。

（3番　武政健三君発言席）

○3番（武政健三君）　ということは、このイベントは11月3日当日、足摺のホテルに来ていただいた観光客と地元の方々にも参加していただき、足摺のスターウオッチングの認知とイメージアップを図るためのイベントということよろしいですね。

続けてお聞きいたします。この企画の昨年、ことしの企画内容及び集客目標を教えてください。

○議長（永野裕夫君）　観光商工課長。

（観光商工課長　二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君）　お答えいたします。

スターウオッチングは15年前ごろより、足摺岬のホテルにて宿泊者に対し無料で実施されてきたもので、現在はあしずり温泉協議会加盟ホテルを中心に年間6,000人弱の方々が体験されております。

先ほど申しましたように、このスターウオッチングを旅行商品に組み立てる取り組みを始めたところでありまして、昨年度は、この取り組みのスタートイベントとして開催いたしました。まずは唐人駄場でのスターウオッチングを多くの方に知っていただくこと、土佐清水市の星空を知っていただくこととして、市民も含めて1,000人の集客を目標と掲げ、実際は600人弱の参加者がありました。このスタートイベントの後、宿泊客を対象として旅行商品化に向けたモニターツアーも8回実施いたしました。

最終目標としておりますスターウオッチングを商品化する事業の目標値といたしましては、このスターウオッチングを目的として本市を訪れる観光客500人増を目標としておりますが、ことし11月3日に開催しましたイベントそのものの自体の目標数は掲げておりませんでした。

言いわけになってしまいますけれども、主催者であるあしずり温泉協議会の加盟施設の脱会が続き、ことしは十分な計画が立てられないままの状態であったことも要因となり、前々日、前日に開催しました足摺きらりのチラシを間借りしての告知になるなど、ほとんど予算もかけられないままの開催となってしまいました。

ただ、どんな状況でありましても、イベントとして開催するのであれば、先ほど議員がおっしゃるように目標値の設定などは必要であったと反省しております。今後、イベントの開催に当たりましては、市が主催であるものはもちろんのこと、関係機関が主催で市が協力・連携体制にあるものにつきましては、しっかりした計画、目標、そして反省を実施してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 企画内容を把握いたしました。

このイベントの集客目標、去年は1,000名目標。しかし2回目のことしは主催者が忙しくて設定ができていなかった。目標数値もないままに終わってしまったということですね。関係機関が主催で、市が主催ではないにせよ、市民・県民の補助金を使って、去年、ことしと多大な金額を出している以上、これはもう当然市にも責任ができてしまいますので、そこはしっかりと前もっての確認、そして連携をとりながら行動しないといけないと思いますね。大きな反省点ではないかと思います。

次に、観光商工課長にお聞きいたします。この企画の去年、ことしの経費、予算、そしてその相乗効果の予想、教えてください。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

繰り返しになりますが、スターウオッチングを旅行商品化につなげることを目的としておりますので、昨年度は、今後の旅行商品化につなげるために必要となる備品類、具体的にはレーザーポインターやLEDライト、投光器といったものの備品購入費や広報プロモーション費を合わせて295万円、うち3分の2は県補助をいただいております。また、旅行商品化に向けたモニターツアー事業費としては28万6,000円が実績額となっております。

ことし11月3日のイベント経費としては5万円程度、宿泊者向けのスターウオッチング実施の運営補助として、あしずり温泉協議会に50万円を補助することとして継続して取り組んでいるところです。

相乗効果といたしましては、このイベント等に参加していただいた市民の皆さんを含めた参加者の皆さんからのSNS等での発信によるPR効果を期待しております。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 去年は野外でのイベントができるように、あらゆる備品を購入した経緯を記憶しております。それだけにことしはどういう形でやるのかなというのも期待をしていた市民の方々も多いんじゃないかと思いますけども。

次に、観光商工課長にお聞きいたします。昨年とことしの集客人数及び相乗効果の結果はどうでしたでしょうか。お願いします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

去年のスタートイベントは約600人の参加者がありましたが、先ほどから御説明させていただいておりますように、去年はスターウオッチングの商品化に向けた取り組みのスタートイベントとして開催したもので、スターウオッチングそのもののイベントを今後毎年行うというものではないことを、まず御理解いただきたいと思います。

ことしにつきましては、本市でのスターウオッチングのすばらしさをさらに多くの方々に知っていただくことを目的として、同様なイベントを足摺岬展望台で開催いたしましたところ。ことしの開催につきましては、先ほど答弁いたしました要因もあり、残念ながら全体的に参加者は少ない状況でありました。人数といたしましては、音楽バンドのコンサート、絵本の読み聞かせなど、前段のイベントへの参加者数は除きまして、スターウオッチングそのものに参加されたのは50人程度でありました。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） ここからです。去年はですね、人気バンドの歌手を呼んで、宿泊客だけではなく、一般の方がいっぱい来ていただいております。本当に600人以上の方が集まっております。私も楽しみに参加させていただきましたが、ふだんは絶対見れない足摺の唐人駄場だからこそ見える、本当にきれいな満天の星空。天の川ですね、ちっちゃい一つ一つの星まできれいにリアルに見える、本当にすばらしい企画だと感じました。本当に、これ私の個人の意見ですけど、宇宙を感じるんですよ。宇宙の中にいる感じ。600人以上の方に来ていただいておりますけども、ほとんどの方が多分びっくりして帰っていただいたの

ではないか、そういうふうに思います。

このスターウォッチングという企画、力を入れれば絶対売れる商品にできる。そして足摺の体験型プランの1つに必ずできる。私はそういうふうに思っております。だからこそ、今後のアクションが重要になってくるわけですが、観光商工課長にお聞きいたします。次回のための反省会はしたのでしょうか。したのであれば、その内容はどのようなお話が出てきていたのか教えてください。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

スターウォッチングを商品化していくことに対する反省会は行っております。出された意見、課題といたしましては、何より先ほど武政議員がおっしゃってくれたような感動した御意見はたくさんお聞かせいただきました。

課題といたしましては2つ主にありまして、1点目は、ホテルから唐人駄場まで行く往復の移動時間を含めると1時間半から2時間程度が必要となり、時間がかかり過ぎる。

2つ目としては、足摺岬と唐人駄場では天候が多少違い、ツアー実施の判断が難しいとの内容でした。

これらの反省を踏まえ、全ての課題が克服されてはおりませんけれども、今年度から本格実施に向けて取り組んでおり、実際、唐人駄場スターウォッチングを有料で開始しております。スターウォッチングをもっと多くの人たちに知ってもらい、体験してもらおうきっかけづくりとして開催したイベントそのものにつきましては、先ほど来申し上げておりますように、実施主体であるあしずり温泉協議会の足並みがそろっていなかったこと、市としても十分な対応ができなかったこともあり、観光協会とのお手伝いをしながらということになったことで、イベントの周知から実施までが不完全なものとなってしまったことが大きな反省点であると感じております。このイベントに参加していただいた方には大変がっかり感を持たれたしまったということであれば申しわけなく思いますし、御協力いただきました前段の音楽バンドの皆さん、絵本の読み聞かせをいただいた皆さんにも申しわけなく思っております。この反省をしっかりと基本として、来年度以降、企画もの、イベントについてはしっかりした計画を立てて実施していきたいと思っております。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） ありがとうございます。

特にこういうイベントの反省会というのは、時間をおかずに熱が冷めないうちに、よかった

こと、そして改善しないといけないことをしっかり記録をしてですね、次回の参考資料にするべき。そういうふうに思います。

続きまして、観光商工課長にお聞きいたします。スターウオッチングは唐人駄場でと私勝手に思っておりましたが、場所は唐人駄場から展望台に変えたのでしょうか、お聞きします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

先ほど言いましたように、ホテルに泊まった方が唐人駄場まで行かれるのには、移動時間が長過ぎるなどの意見が出されたこともありまして、まずは現在各ホテルの宿泊者を対象とし、足摺岬展望台にて無料で行っているスターウオッチングをレベルアップして有料化していく取り組みを進めることと致しました。その上で、唐人駄場スターウオッチングに時間をかけても行きたいと思わせるようなプレミアムツアーとしての商品化を目指すこととして、現在協議・検討しております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） わかりました。私、一番最初に聞いたときに、えって思ったんですけども、実際行ってみると足摺の展望台での星、ここも本当にすばらしいです。足摺の展望台、そしてスペシャルプレミアムという形で唐人駄場。この2種類という形の考え方も本当にいいんじゃないかなと思いますので、それも引き続きよろしくお願いします。

このスターウオッチングといいますのは、実は御存じの方もたくさんいらっしゃると思いますが、長野県で成功しております。長野県で天空の楽園、スタービレッジ阿智。これはホームページを見させていただきましたけども、本当にきれいです。でも、写真、動画を見る限り、この足摺の星空、絶対負けてないと思います。長野が山のスターウオッチング。それなら足摺は海でのスターウオッチング。二番煎じでも全然大丈夫だと思います。

昨年、唐人駄場でのイベントでも、また展望でのあらゆる写真、動画をたくさんかき集めて編集・作成をすれば、長野県に負けないすばらしい動画ができるのではないかな。そういうふうに個人的に思っておりますが、もっと力を入れていただいて、昨年、ことしといただいた補助金以上のものを稼ぐ企画のものにして、市民・県民にお返しをしないといかんと私は思います。

先ほど言いましたように、どんな小さなイベントでも、まず目的は何か。そして目標の設定。そして実行。最後に結果。その後で反省会をしてですね、次回のために参考資料を残す。これを必ず実行していただいて、たとえ主催ではなく協賛でも事前に関連会社と前もっての確認を

していただき、連携をとりながら企画ものの成功をさせていただいて、もっともっと観光を盛り上げていただきたい。そういうふうに思います。

それでは泥谷市長に、この企画ものについての所見、よろしくお願いします。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 御指摘のとおりだと思っております。土佐清水市では年間を通じて、本当に他市町村に比べ、非常に観光イベントが多くありまして、そのたびに観光協会を初め、関係団体、関係者、そして市役所の担当課においては企画、準備、その後始末、そういったものに追われている状況であります。議員御指摘のとおり、しっかりと検証してみる必要があると思います。

具体的に言いますと、場所ですね。時間などの日程の選定ミスはなかったのか。周知、告知不足はなかったか。内容、コンテンツパワーが不足していたのではなかったか。そして何のためのイベントだったのか。ビジョンや目的を共有していたのか。誰のためのイベントだったのか。ターゲットが曖昧ではなかったかなどなど、本当に反省点はたくさんあると思います。ぜひ、もう一度しっかりと検証しながら、効果的なイベントになるよう、しっかりと取り組んでまいりますので、どうか御理解をお願いしたいと思います。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 市長、ありがとうございます。

後でも話しますが、来年というのは本当に清水の観光では本当にビジネスチャンスだと思うんですね。やるのは本当に今ではないか、そういうふうに思いますので、どうかよろしくお願いします。

それでは3つ目の質問に移らせていただきます。

観光客増に向けての足摺岬遊歩道の整備及び観光地としてのあり方を質問させていただきます。

ことし4月、竜串にスノーピークが完成いたしました。来年は3月にビジターセンター、7月には待望の水族館SATOUMIが完成予定です。当然、土佐清水への観光客はふえるはず。その観光客は足摺岬にも来ていただけたらと思います。

しかしながら、観光だけしてそのまま帰られないように、体験型のプランをもっと充実させるべきではないか。そういうお話を前回お話させていただきました。

今回は、その前段の基本の話をしていただきます。観光に来ていただいたお客様を気持ちよくお迎えできる体制になっているのか。観光客目線でもう一度見直すべきではないかという

点を質問させていただきます。昨日の吉村議員のトイレの話にも、これ共通していることではないかなと思います。

観光商工課長にお聞きいたします。足摺岬の遊歩道の清掃及び整備は、誰がどの周期で、どのようにしているか教えてください。お願いします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

国立公園遊歩道の清掃、管理につきましては、市から観光協会へ委託しております。

その業務内容といたしましては、遊歩道の清掃を週3回、合わせて年4回以上の四国のみちのパトロール及び年2回の休憩所周辺の草刈りとしております。

昨年度の実績では、足摺岬方面の遊歩道の清掃が延べ166回、四国のみちパトロール4回、草刈り2回に加え、臨時作業として清掃を含めた草刈りを6回実施しました。

また、地元の足摺岬の自然を守る会の皆さんが、毎月20日を活動日としておりまして、活動前に遊歩道が汚れていれば、その20日を清掃作業とし、足摺岬を訪れる観光客に悪いイメージを与えないようにと、遊歩道やその周辺の清掃をボランティアで行ってくださっております。昨年度は年4回実施していただいております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 遊歩道は週に3回も掃除をしていただいているんですね。

しかしながら、委託をしても市のほうも定期的に新しい目での確認、チェック機能も必要なのではないか。そういうふうに思います。

仮に、気がついたことがあれば観光商工課に連絡すれば観光協会に連絡がいったって処理をしていただける。そういうことですね。わかりました。ありがとうございます。

次に、観光商工課長にお聞きいたします。遊歩道を改めて歩いてみますと、木が伸びて海が見えにくい場所があります。これは伐採は可能なのでしょうか。お聞きいたします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

私もこの4月以降歩いたときに、武政議員と同じような場所を何カ所か見ております。そのときに環境省にも御相談はしましたが、ただここは国立公園内となりますので一定の制限はあると言われておりますが、環境省の許可がいただける範囲で可能だということです。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3 番、武政健三君。

（3 番 武政健三君発言席）

○3 番（武政健三君） 可能なんですね。国立公園内ですので制限があるということですけども、本当、国道・県道、きれいな海が見えるところは全部切っていただきたいぐらいの気持ちなんですけども、それはもう絶対環境省が許してはくれないと思いますので、ただし、見えなくなったから切らんといかんというスタンスではなく、いつ観光客が来られても一番きれいな状態で海が見えるという観光地でないといかんのじゃないでしょうか。私はそう思います。この話はまた後でもう一度お話ししますので、次に移らせていただきます。

次に、足摺岬観光と検索いたしましたら、いろいろなきれいな写真が出てきます。でも、これ個人的な意見です。残念なことに昔からある同じような写真ばかりというふうに私は感じます。あくまでもこれは私個人の意見です。

昨今、フェイスブックやインスタに出ているような、もっと生の臨場感のある動画、これをもっとアピールするべきではないか、そういうふうに思うわけなんですけども、例えば足摺岬の遊歩道、皆さん行ったことあると思います。鳥の声が聞こえます。海の音も聞こえます。その中を枯れ葉をさくっさくっと踏みながら歩いていくと、その向こうには真っ青な太平洋が見えてくるといふような楽しい動画を入れてみたらどうかなというふうに思うわけなんですけども、観光商工課長にお聞きいたします。土佐清水市観光商工課のホームページに新たにiPhoneなどでの動画を載せることは可能でしょうか。お聞きいたします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

市のホームページを管理しております総務課情報システム係に確認いたしますと、動画の掲載方法に一定の制約はあるようですが、可能だということです。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3 番、武政健三君。

（3 番 武政健三君発言席）

○3 番（武政健三君） 可能なんですね。この動画というのは、私前仕事をしておりましたとき、iPadというのが出ました。iPadをですね、とにかく一番先に買って、自分のプレゼンに使うようにいろんなところの写真を撮りました。それと写真だけではなく動画を撮りました。動画を撮るとですね、例えばあるホテルの中、本物よりもきれいに見えるんです。目の前にあるものよりもきれいに写るんです。それを各会場に回っていろいろプレゼンをさせていただいて、

それが結構好評だったので今回提案させていただいておるんですけども、例えば足摺のきれいで、しかもおもしろい動画が市のホームページに載ってますよということで、フェイスブック、インスタで皆さんにシェアをしていただき、どんどん拡散していただければ無料で全国に世界に発信ができます。それでは改めて担当課にお伺いをさせていただきますので、またそのときはよろしく願いいたします。

それでは最後の質問になります。

私は大岐の浜が大好きです。大岐の浜は、この白い砂浜、ハワイにも沖縄にも負けないと思います。清水の大事な宝だと思います。私、高知の会社におるとき、清水遊びきいや、まず一番最初に大岐って白い砂浜がある、見に来いや。宣伝いたしておりました。高知方面から清水に帰るときは、よく大岐の浜の北側の展望駐車場、こちらのほうに車をとめてですね、大岐の浜でよく波を見ました。私ぎっくり腰をしょっちゅうするのでサーフィンはできませんけども、とにかく波がもう大好きで、いつもその駐車場で大岐の浜の波を見ておりました。けど残念ながら、何年も前から木が伸び過ぎてですね、浜がきれいに見えないんですよ。前からです。皆様も感じることもあるんじゃないでしょうか。通っていますと観光客が見えないものでベンチの上に立って見よる。もしくは手すりの上に上がって見よる。こういうシーンを皆さん見たことあると思います。私たちの土佐清水、漁業の町でもありますけども、観光の町です。市外、県外から来ていただける観光客は私たちの大事なお客様です。その大事なお客様がわざわざ遠くから来ていただき、清水の玄関の大岐の浜に来ていただき、木が伸びて海が見えん。これは観光地として、こんな失礼で不親切なことはないと思います。一刻も早く観光客のために、きれいな砂浜がきれいに見える環境をつくらないといかんのではないか。そういうふうに私は感じます。

観光商工課長にお聞きいたします。大岐の浜北側展望駐車場の木が伸びて海が見えない。伐採は可能でしょうか。お聞きいたします。

○議長（永野裕夫君） 観光商工課長。

（観光商工課長 二宮眞弓君自席）

○観光商工課長（二宮眞弓君） お答えいたします。

御指摘の木が生えている土地は民有地でありますので、所有者の方に御理解がいただければ、またここも国立公園内でもありますので、環境省の許可がいただける範囲でしたら可能です。現在、その手続を進めております。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） ありがとうございます。可能なんですね。所有者の方には観光客のため、土佐清水市のため、枝をきれいに整えさせてくださいとお願いすれば断られる理由はないと思いますのでね。一刻も早くお願いに行って、できるようによろしくお願いします。

それでは最後に、もう一度お話をさせてください。

先ほど言いましたように、私たちのこの土佐清水市は、観光の町です。観光客が一人でも多く来ていただけるように、あらゆる企画をして市は頑張っております。その観光客という大事なお客様をお迎えするためには、木が伸びて見えなくなったから切らんといかんというスタンスではなく、いつ来られても最高にきれいな環境でお迎えしないといかん。そういう熱い気持ちがあれば、一度清水に来たけども、また来たい土佐清水になれんと思います。何度も言いますが、来年ビジターセンター、水族館ができる今が私たちの土佐清水の本当に大きなビジネスチャンス、そういうふうに思います。観光客顧客満足度ナンバーワンの土佐清水市を今本気で目指さないといけないときだと私は思っております。

その1つとして足摺岬の遊歩道、そして大岐の浜を環境省、所有者のお許しが出れば、半年に1回なのか1年に1回なのか、2年に1回なのかよくわかりません。定期的な伐採をして、いつ来てもきれいな海が見える観光地にすることを私は希望しております。

令和元年度最後の答弁になります。泥谷市長、所見よろしく願いいたします。

○議長（永野裕夫君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 今、観光商工課長より答弁がありましたが、国立公園内では自然公園法に基づき、さまざまな規定がありまして、特に樹木の伐採についてはですね、過去にも環境省の厳しい指導を受けたこともありますので、先ほど課長が答弁いたしましたように、環境省ともしっかりと連絡をとり合いながら、すばらしい景観を多くの観光客の皆様に御堪能していただけるように注意を払いたいと思っておりますので、御理解をお願いいたします。

以上です。

○議長（永野裕夫君） 3番、武政健三君。

（3番 武政健三君発言席）

○3番（武政健三君） 泥谷市長、ありがとうございます。早速行動に移していただけるように、よろしくお願いします。

来年が土佐清水市にとって明るくすばらしい年になりますよう祈念しながら、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（永野裕夫君） 以上で通告による一般質問は全て終了いたしました。

一般質問を終わります。

市長提出議案第 76 号から議案第 100 号までの議案 25 件につきましては、お手元に配付しております議案付託表のとおり、それぞれの所管の常任委員会に付託いたします。

なお、委員会の日程は予算決算常任委員会は 12 日午前 9 時から、総務文教常任委員会は 13 日午前 9 時から、産業厚生常任委員会は同日午後 1 時 30 分からそれぞれ開催いたします。

各委員会は 12 月 18 日までに各案件の審査を終わりますよう特に御配慮をお願いいたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

次の本会議は、12 月 18 日午前 10 時に再開いたします。

本日の会議は、これをもって散会いたします。お疲れさまでございました。

午後 0 時 01 分 散 会